講義名	日本史Ｂ					授業形態	
担当教員	藤原　喜美子	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 １時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

この講義の目的は、各時代の人々が生活していた日本の社会を読み取りながら、日本の歴史や文化の在り方を理解していくことにある。日本が現代の社会を迎えるまでには、様々な歴史の積み重ねがある。
そこで、各時代を生きた人々がどのように社会を形成し、それぞれの歴史や文化を築いていたのか、時代ごとの特性を紹介しながら講義を進める。

到達目標

学生が、講義の内容を理解した上で、日本の歴史における政治や文化の特色を知り、興味のある時代について自らの言葉で説明できるようになる。

提出課題

① 講義では毎回、講義内容に関わる感想文などを記入し、小レポートとして提出してもらう。感想文のテーマは、講義ごとに伝える。
② 小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、学期末レポートの提出を求める。このレポート課題の詳細は、別途、6月前半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に授業などで、日本の歴史に関わる事例として紹介する。

評価の基準

評価は、①平常点（各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点）、②学期末レポート（40点）を総合して行う。
評価の基準は、第１回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

1. 高校の『日本史Ｂ』の教科書は、よい参考図書になる。高校の時に使用していた教科書があれば、読んでほしい。どの出版社のものでもよい。また、書店によっては『日本史Ｂ』の教科書を販売している。
2. 予習として各自が調べた内容や大事だと思う箇所はメモをとること。
3. 講義中に私語をし、他人の学習の妨害をしないこと。　教室内での私語など、受講態度が好ましくない者には退室を求めることがある。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.なし.				

その他

＜プリント資料＞
各時間、プリント資料を配布する。
※プリント資料は無くなさいように保存すること。
＜参考文献＞
講義中に適宜紹介する。

授業計画

講義の進め方の詳細は、教室で行う第１回の講義で説明する。

1．日本史とは
　日本史をどのようにとらえるか
2．日本列島のはじまり
　縄文文化・弥生文化
3．各地域に出現した古墳
　古墳文化
4．飛鳥の朝廷
　飛鳥文化
5．律令国家の形成
　白鳳文化
6．平城京への遷都
　天平文化と国家仏教の展開
7．平安京への遷都
　弘仁・貞観文化
8．摂関政治と摂関家
　国風文化
9．院政期の社会
　院政期の文化
10．平氏政権から源氏政権へ
　鎌倉幕府の成立と鎌倉文化
11．室町幕府の成立
　室町文化
12．織豊政権
　桃山文化
13．江戸幕府の成立
　元禄文化
14．都市の繁栄と町人文化
　元禄文化・化政文化
15．近代国家の成立
　開国と文明開化

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

〈予習〉
次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある講義のテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を１つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。
〈復習〉
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、全学共通科目の教養科目として、上記の主題と概要、到達目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。
(2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
・課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)
・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
・現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、板書・プリントを用いた講義の形式で進める。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、日本の歴史や地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考

《受講生へのメッセージ》
① 講義の進め方の詳細は、教室で行う第１回の授業で説明する。教室では座席の間隔をあけ、教室の換気や手の消毒を励行し、感染症拡大の防止に努める。

② 万が一、一時的に通学困難になった場合は、授業の資料の配付や課題等の連絡は、個別にメールで連絡し、必ず対応させていただく。

③ 歴史は、現在の日本や今後の日本を考える資料になる。日本史は、暗記科目ではない。
日本の歴史を学ぶことで、現在の日本や今後の日本について各自が考えるための情報（資料）を探してもらいたいと思う。現在の日本は、各時代の歴史の積み重ねで形成されている。そのため、過去の様々な歴史を振り返ることで、現在の日本を知るきっかけにしてもらいたい。時代・人物・場所・出来事など、各自が興味のある事柄を探す目線を育んでいただきたい。